

今週（9月24日から9月27日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、24日にTB 3M物の発行・償還、26日に40Yの発行があったものの、資金需給的に大きな過不足は見られなかった。一部地銀業態から取りあがる動きが見られたが、その他に関しては様子見姿勢だったこともあり、出合いレートは先週末比で概ね横這い圏での推移となった。地銀・証券業態の出合いは▲0.08～▲0.02%という幅広いレンジになる一方で、都銀・信託業態の出合いは▲0.085～▲0.06%と低めの水準となった。3日積みにあたる27日（金）は、全体的に取り手のニーズが強まり、邦銀・証券業態からの調達で▲0.065～▲0.02%のレンジで出合いが見られ、強含みの展開となった。無担保コールO/N物の加重平均レートは、26日までは▲0.05%台後半から半ばでの推移となり、27日は▲0.04%台半ばに上昇した。ターム物の出合いは、期越物の取引を行えない先が多く、期内物のショートタームで散発的な出合いが見られた程度で、閑散な取引となった。

固定金利方式の共通担保資金供給オペは、27日に2W・15,000億円がオファーされ、応札額2,238億円（期落ち額2,238億円）の札割れとなった。

●レポ市場

今週のGC O/N物は、週半ば以降は玉確保ニーズの高まりからレートが低下基調となり、▲0.135～▲0.07%程度での出合いとなった。

SC個別銘柄では、2Y402～404、5Y136～140、10Y336～355、20Y160～169、30Y59～63、40Y9～12などカレント近辺の銘柄にビッドの出入りが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、全般的に閑散なマーケットとなった。6M物・1Y物は、中期債が強含みで推移したことで連れ高の様相となり、▲0.310%程度の出合いと堅調に推移した。一方、3M物は、▲0.140%程度の出合いと小甘く推移していたものの、27日の入札後はショートカバーもあって強含みの展開となった。

25日に実施された短国買入オペは、7,500億円がオファーされた。オペ通告後に6M物が▲0.310%、1Y物が▲0.310～▲0.305%で出合う展開となる中、平均落札利回較差+0.006%、按分落札利回較差+0.005%と、在庫調整の売りから小甘い結果となった。

27日には3M物の入札が実施された。償還日が年末越えとなることもあって、WI取引において▲0.250%で出合う展開となる中、平均落札利回▲0.2709%、按分落札利回▲0.2553%と事前予想よりも強めの結果となった。結果発表後のセカンダリーマーケットでは、ショートカバーから▲0.300%から▲0.365%まで買い進まれるなど、強めの出合いが見られた。

●CP市場

今週のCP市場は、期末要因で調達を控える発行体も多く、週間償還総額4兆6,000億円程度に対して、発行総額は1兆9,000億円程度にとどまるなど、3月末と同程度の大規模な償還超となった。9月末の市場残高は17兆円台後半で着地することが予想され、前年比では1.5～2兆円程増加していることとなる。25日には、CP等買入オペが事前発表通り4,000億円がオファーされた。買入対象が9月末越え物に限定されることからレート低下の可能性も指摘されていたが、発行残高が例年より高い水準にあることもあり、結果は平均落札レート▲0.001%、按分落札レート▲0.005%と、平均、按分ともに前回(平均▲0.006% 按分▲0.009%)比で上昇した。これら大幅償還超の地合いや25日に実施されたCP等買入オペの影響もあって、ディーラーの玉確保ニーズが強まったとみられ、発行レートに関して一部ではマイナス圏でレートを切り下げる動きも見られた。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日物・ T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
9/23 (月)						
9/24 (火)	22,098.84	△ 0.245	107.66	△ 0.059	△ 0.082	4,095,900
9/25 (水)	22,020.15	△ 0.260	107.07	△ 0.058	△ 0.092	4,101,000
9/26 (木)	22,048.24	△ 0.250	107.71	△ 0.055	△ 0.111	4,097,600
9/27 (金)	21,878.90	△ 0.240	107.77	△ 0.045	△ 0.113	4,086,800

## 来週（9月30日から10月4日）の短期金融市場動向

### ●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
9/30 (月)	決定会合における主な意見(9月18・19日分 8:50) 8月の商業動態統計速報(経済産業省 8:50) 8月の鉱工業生産・出荷・在庫速報(経済産業省 8:50) 8月の住宅着工統計(国土交通省 14:00)				9月のシカゴPM景況感指数 4-6月期の英GDP確報値
10/1 (火)	8月の労働力調査(完全失業率 総務省 8:30) 9月調査の日銀短観(概要及び要旨,日銀 8:50) 8月の一般職業紹介状況(=有効求人倍率 厚生労働省 8:30)	10Y 21,000億円 10/2発行			9月のISM 製造業景況指数 8月の米建設支出 9月のユーロ圏消費者物価指数速報値
10/2 (水)	財政資金対民間収支前月実績/当月見込み(財務省 15:00) 9月のマネタリーベース(日銀 8:50) 9月の消費動向調査(内閣府 14:00)	交付税借入 10,500億円 10/11借入			
10/3 (木)	島根県金融経済懇談会において布野審議委員講演 10月の日銀当座預金増減要因見込み(日銀 8:50)	流動性供給 5,000億円 10/4発行			9月のISM 非製造業景況指数 8月の米製造業新規受注・出荷・在庫
10/4 (金)		TB3M 42,700億円 10/7発行			9月の米雇用統計 8月の米貿易収支

### ●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
9/30 (月)	200	▲ 3,700	▲ 3,500	全店共通 CP買入 国債補完	▲ 2,200 ▲ 4,400 400	2,200 4,000	0	▲ 3,500	TB3M発行▲42700償還42700
10/1 (火)	1,000	▲ 28,000	▲ 27,000				0	▲ 27,000	2Y発行▲20000
10/2 (水)	1,000	▲ 52,000	▲ 51,000				0	▲ 51,000	消費税・法人税揚げ 年金保険料揚げ 社会保障 10Y発行▲22000
10/3 (木)	0	2,000	2,000				0	2,000	
10/4 (金)	0	▲ 3,000	▲ 3,000				0	▲ 3,000	恩給 流動性供給発行▲5000
週間合計	2,200	▲ 84,700	▲ 82,500	—	▲ 6,200	6,200	0	▲ 82,500	

9/30は日銀予想、10/1以降は当社予想

### ●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、30日は四半期末越えの取引となる。ビッドサイドが大幅に減少することが予想されるため、加重平均レートは若干低下すると考えられる。10月以降は税揚げなどで資金需給は不足となり易く、レートは上昇傾向となると予想する。レポ市場は、積み期後半に突入する中、資金ニーズの動向が注目される。短国市場は、4日に3M物の入札が実施予定となっている。日銀の金融緩和への思惑などがレート水準にどう影響するか、市場動向が注目される。CP市場は期末明けとなる。企業の資金調達により、どの程度市場残高が回復するか注目が集まる。期末に投資家のポジションが落ちていることもあり、発行レートは引続き浅いマイナスから0%近辺の低位で推移することが予想される。

主要なイベントとしては、1日に日銀短観、9月のユーロ圏CPI速報値、4日に9月の米雇用統計が予定されている。

- ◆本資料は信頼できるとされる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂くものがあります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目録見書をよくお読みください。